


2月6日 逍遙 

ところで、西郷さんの銅像周辺は、ワタシがいつ散歩してもスマホやカメラを構えた人間達を必ずと言っていいほど見かけます。どの人もほぼ例外なく、和やかな表情で西郷さんの銅像と城山をバックに記念撮影をしたり、偶に地元の観光ガイドさんかタクシーの運転手さんと思しき人から何やら解説を受けているような、そんな風景が毎回繰り返されています。それほど西郷さんの人気は、人間達の世界では、特に鹿児島では、絶大なようです。

この西郷さんの人気の理由って、一体何なのでしょう。まさか散歩好きの猫のワタシと同じ理由ではないでしょうか。ただ単に鹿児島と言えば西郷さん、というお決まりの観光地巡りを達成できた満足感からなのではないでしょうか。それとも、ワタシが西郷さんの銅像から感じる、あの不思議な優しさ、心地よい安心感を、同じように感じられる人間も少しはいるのでしょうか。

西郷さんの銅像の足元で日向ぼっこ中のワタシの眼に映る人間達は、ワタシに、ワタシ達・猫社会にはない「文明」への違和感だけを残していきます…

次回「それぞれの銅像を繋ぐもの、のころ」

すず
人間達の「文明」を疑う、
のころ

